

税金の芽

東中学校 3年 佐藤 花波

「皆さん、教科書は大切に使いましょうね。国民の税金によって払われているのですから。」私は、その先生の言葉に、なんだか教科書がいつもより重く感じた。私の中で、ただで貰えて当たり前だった教科書は、顔も知らない誰かが、自分の為に一生懸命働いた税金でできていた。一体、どうして税金が私達に与えられるのだろうか。

学校は私達に、知識、判断力、協調性、生命や自然を大切にする心、を身に付けさせてくれる貴重な場である。今の日本を担う大人達も、私達と同じように税金で教育を受けてきた。そして、そこで身に付けた事を活かし、人の役に立とう、社会の役に立とう、としてくれる人がいる。そういった人が働いてくれたお金の一部で、私達は学校に通う事が出来る。そこには、私達に「日本をよりよい国にして欲しい」、「よい大人になって欲しい」という願いが込められているのではないかと思う。それが私達に税金が与えられる理由だ。

しかし、今の日本はどうだろうか。テレビを見ると、マスコミは政府の税金の使い道の問題点ばかりを伝え、良い面を伝えようとしない。税金に対して、マイナスのイメージを持つ人が増えてしまうのも無理がないだろう。常に不満ばかりを述べる国民に限って、自分達の生活に税金が使われている事を知ろうとしていないのではないか。

私は以前、テレビでアフリカの人々を見た。そこには、私達の生活では考えられない光景ばかりであった。目を疑った。まともな食料が手に入らず、やせ細っていく子どもたち、道に倒れたままの遺体、濁った水を貴重に飲む子ども達……。私はあまりの壮絶さにチャンネルを変えてしまった。

アフリカは税制度が完全でない。飲み水を綺麗にすること、危険な道を補強することも出来ない。医療の手当ても行き届かず、一秒単位で人々が亡くなっていく。それに比べ日本はどうだろう。蛇口をひねると綺麗な水が出てくるし、災害が起きてもすぐにレスキュー隊がかけつけて来る、道路だってすぐに整備されるし、病気の人を手当てする病院や、老人を介護する介護施設だってある。そこにいる人達は私に、笑顔で挨拶してくれる。身寄りがなかったり、近くに親族がいない人でも、実に楽しそうに過ごしている。税金は私達を、こんなにもしっかりと支えてくれていた。税金は植物と似ている。日光に当てて、水を与え続ければ、成長していき花は綺麗に咲き続ける。与えなければ枯れていく。手遅れだと知った時、人は初めて後悔する。

私達の生活、日本の未来にも欠かすことの出来ない税金の芽に、人々の力で水を与え、花が咲き続けられる未来であって欲しい。そして、私はもっと税金を知り、貧しい国や、

大切な一人一人の為に税金を払っていきたい。そして、日本人として恥じない大人になりたいと思う。